真岡市行政評価システム

評価対象年度　令和7 年度

事務事業評価マネージメントシート

作成日　令和8年3月12日

事務事業名	教育国際交流事業		担当課・係	教育委員会　学校教育課　教育政策係
政策名 No	1	「人づくり」～豊かなこころアップ！～		【重点】総合計画重点事業
施策名 No	3	国際化に対応した教育	事業期間	毎年度実施　（開始年度H元年度～）
関連個別計画	真岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略		関連するSDGs･DX	
法令根拠				
事業内容	教育国際交流事業			
求められる成果	児童生徒が国際的な視野を持ち、異なる文化を理解したグローバル人材を育成する。			
前年度記載「今後の方向性と課題への対応・改善策」	・二宮地区３中学校及び真岡小学校のICTを活用した日常的な交流への支援 ・山前中学校の交流校からの視察団歓迎への支援			
事業概要・施策実施状況	国際交流事業の一環として、市内全９中学校が海外の姉妹校等との生徒の派遣・受入による直接的な交流を実施している。 【各学校の交流校】 ・真岡中：オーストラリアハーヴィー市　オーストラリンド校（姉妹校　平成15年10月30日～） ・真岡東中：アメリカグレンドーラ市　ガダード中（姉妹校　平成2年11月9日～） ・真岡西中：台湾斗六市　正心高級中（姉妹校　平成5年7月23日～） ・大内中：台湾斗六市　正心高級中（令和6年度から真岡西中学校と共同交流実施） ・山前中：アメリカコビーナ市　ロイヤルオークミドル中との交流に向けて調整を進める。 （令和７年度は真岡東中と姉妹校であるグレンドーラガダード中との合同交流を実施） ・中村中：アメリカグレンドーラ市　サンドバーグ中（姉妹校　平成18年11月3日～） ・長沼中、久下田中、物部中:オーストラリアハーヴィー市　ハーヴィシニアハイスクール姉妹校締結に向けた相互交流を実施する。 【教育国際交流支援事業補助金（R6～）】 ・補助金額　教育国際交流事業に参加した生徒保護者に対し、1人当たり台湾1万円　アメリカ・オーストラリア3万円を補助			

1.現状把握の部（1）事務事業の目的と指標

ア）手段（主な活動・Do）

令和7年度実績
【派遣・受入】
・真岡中：受入
・真岡東中：派遣
・真岡西中：大内中と合同で派遣
・大内中：真岡西中と合同で派遣
・中村中：派遣
・山前中：グレンドーラガダード中に真岡東中と合同で派遣
・長沼、久下田、物部中学校：派遣

イ）活動指標（事務事業の活動量を示す指標）の推移

名称	単位	初年度からの実績値の比較 R7	R8	R9	R10	R11
派遣生徒数	人	92				
受入生徒数	人	11				
姉妹校締結数	校	4				

ウ）対象（誰を、何を対象にしていますか）

※人・自然資源等
市内中学校生徒

エ）対象指標(対象の大きさを表す指標)の推移

名称	単位	初年度からの実績値の比較 R7	R8	R9	R10	R11
中学校生徒数	人	2,108				

オ）意図(この事業によって、対象を成果に導くための方向性どう変えたいですか)

姉妹校等生徒との交流を通じて、国際理解を深める。

カ）成果指標(対象における意図された対象の程度)の推移

名称	単位	初年度からの実績値の比較 R7	R8	R9	R10	R11	目標値 R11
中２真岡市総合学力調査「外国の人々との交流などを通して、外国の異なる文化に対する理解を深めようとしている」と答えた生徒の割合	%	66.2					

（2）総事業費(決算)の推移（単位：千円）

		R7	R8	R9	R10	R11
事業費 財源内訳 特定財源	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	12,202	0	0	0	0
	一般財源	2,211	0	0	0	0
事業費合計		14,413	0	0	0	0
コスト対前年比			0.0	0.0	0.0	0.0

2.1次評価の部　※原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

(1)目的妥当性評価

①政策体系との整合性：事業の目的（対象・意図）は市の政策体系（結果）に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当ですか？

【評価理由】
語学力と異文化理解、国際感覚を養うことは、国際理解教育の推進という市の施策と結びついている。

□ 向上の余地はある。　■ 向上の余地はない。

②公共関与の妥当性：なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？　民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？

【評価理由】
生徒に国際感覚を身につけさせることは、市の施策であり妥当である。

■ 市が行わなければならない。　□ 市以外でも可能である。

③対象と意図の妥当性：事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？

【評価理由】
市内の中学生を対象としており、国際交流を目的としているので妥当である。

■ 対象・意図を見直す必要はない。　□ 対象を見直す。

(2)有効性評価

④成果の向上余地：事務事業の成果は出ていますか？事務事業のやり方を見直した結果、向上余地があるか判断してください。

【評価理由】
二宮地区3中学校及び山前中学校において、相手校との相互交流を実現し姉妹校締結することで、さらなる国際理解と友好親善を図ることができる。

■ 向上の余地はある。　□ 向上の余地はない。

⑤類似事業との統廃合・連携の可能性：類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？　ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？

□ 類似事業と統合・連携ができる　【類似事業名】
□ 類似事業と統合・連携ができない　【評価理由】　類似事業はない。
■ 類似事業はない

(3)効率性評価

⑥事業費の削減余地：成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできますか？実施方法の適正化によりコスト削減をできますか？

【評価理由】
教育国際交流に必要な経費である。

■ 削減余地はない。　□ 削減余地がある。

⑷事務事業の課題(Check）事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、予算上の課題点、費用対効果向上のための課題
・二宮地区3中学校のオーストラリアハーヴィー市　ハーヴィシニアハイスクールと姉妹校締結することで、さらなる国際理解と友好親善を図ることができる。
・山前中がアメリカコビーナ市のロイヤルオークミドル中との友好的な交流が図れるよう調整を進めることで、市内全ての中学校での直接交流が実現することができる。

⑸今後の方向性と課題への対応・改善策（Action➡Plan）
■現状維持　□やり方改善　□目的拡充　□目的絞り込み　□統合　□廃止

①ただちに取り組むべきこと
・二宮地区３中学校及び真岡小学校のICTを活用した日常的な交流への支援
・山前中学校の交流校からの視察団歓迎への支援

②長期的な計画で検討すること
・市内の生徒数が減少する中、コスト面を踏まえた教育国際交流の手法について他市の状況を把握するなど検討が必要である。
・全校姉妹校締結に向けた取組の推進

（６）改革・改善による期待効果

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		■	
	低下			

3.2次評価

（１）2次評価者として判断した今後の事業の方向性

□ 廃止　□ 休止　□ 目的絞り込み
□ 目的拡充　□ 事業やり方改善
□ 予算削減　□ 予算増大
■ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

（２）その他2次評価会議で指摘された事項

（３）改革・改善による期待効果

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		■	
	低下			